

2017年(平成29年)6月28日

アイスピグ工法

新潟県流域で実証実験

圧送管
800m

硫化水素低減の検証へ

アイスピグ研究会(大岡伸吉会長)は、新潟県阿賀野川流域下水道新井郷川4号幹線(新発田市内)で、圧送管洗浄の実証実験が行われたと発表した。

同研究会員の榎木工業(家老俊一社長)が提案案、新潟県下水道課が現場見学会として企画したもの。県内自治体関係者

や民間業者85人が視察に訪れるなど、関心の高さが伺えた。見学会の冒頭、服部内水道課流域下水道係長は「管内面の腐食劣化や管閉塞により事故が発生すると、復旧には困難を伴う。見学会が圧送管の適正な維持管理の一助となれば」と、見学会開催の意義を各自治体関係者

者らに呼びかけた。

洗浄対象の圧送管は約150×約800mのダクタイル鉄管で、布設県下水道課流域下水道係長は「管内面の腐食劣化や管閉塞により事故が発生すると、復旧には困難を伴う。見学会が圧送管の適正な維持管理の一助となれば」と、見学会開催の意義を各自治体関係者

に呼びかけた。

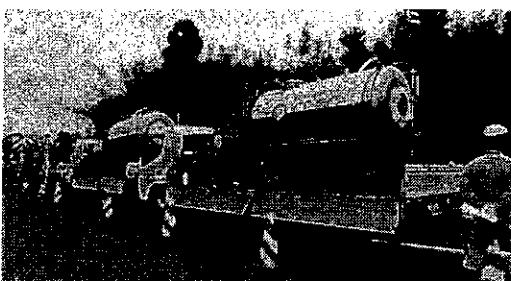
に変色した特殊アイスシャーベットが流

出し口に設置したアクリル配管内に黒色

氷塊点より運搬した。

洗浄開始から約30分後、吐出されたアイスシャーベットを実施した。

なお、今回使用した特殊アイスシャーベットは、環清工業が今年3月に山形県内に設置した製



デリバリーユニットで特殊アイスシャーベットを運搬

テリバリーユニットで運搬された含氷率70%の特殊アイスシャーベットを4・4分注入、回収口

に温度・流量・圧力・塩濃度等を計測する水質監視装置を設置しモニタリングしながら洗浄作業を行う方針だという。

今回管内洗浄を実施した

庄送管路については、半

年間継続的に硫化水素濃度を測定し、効果の検証を行おう方針だという。